

2017年10月25日

総務省

部門の構造（部門構成、部門数）に関する検証（案）

SUTタスクフォース「意見取りまとめ」では、「具体的な部門構成や部門数の設定においては、国内生産・需要額の大きさ、産業における生産技術の類似性、生産物の用途の類似性、産業・生産物の成長性、国際比較可能性の観点から、定量的な分析を行いつつ、検討を行うことが必要である」こととされている。

統計委員会担当室が中心になって、2017年度後半に、上記の方針に沿った調査・分析を実施し、2018年春頃のSUTタスクフォースに報告。議論をサポートする方針。

1 国内生産・需要額の大きさ／産業・生産物の成長性

- ① 既に、「産業連関表」データを用い、列部門（アクティビティ）の国内生産額とその成長性については分析を実施。⇒ 7月14日のTF会合で報告済み。
- ② 行部門（生産物）について、需要額とその成長性について、分析を行う。
— 上記を踏まえ、異なる部門数をもつ複数の部門構成案を試作する。

2 生産技術の類似性

- ① 列部門間の投入係数にはどの程度ばらつきがあるか
— 統合対象となり得る列部門間でのばらつきの大きさに着目。
- ② 仮に列部門の統合を行った場合に、列部門間の投入係数のばらつきが、時間経過とともに上位部門や全体に与える影響度のシミュレーション。
⇒ 過去数回の「産業連関表」データを使って検証。
— 異なる部門数の事例を複数設定し、いわゆる **Composition effect** の影響度合い（投入比率の安定性）を検証する。

3 生産物の用途の類似性

- ① 行部門（生産物）の配分比率にどの程度のばらつきがあるか
 - 統合対象となり得る行部門間でのばらつきの大きさに着目。
- ② 仮に行部門の統合を行った場合に、行部門間の投入係数のばらつきが、時間経過とともに上位部門や全体に与える影響度のシミュレーション。
 - ⇒ 過去数回の「産業連関表」データを使って検証。
 - 異なる部門数の事例を複数設定し、いわゆる **Composition effect** の影響度合い（配分比率の安定性）を検証する。
 - SNA年次推計では、行部門よりも細かいコモ品目レベルで生産額が推計され、同品目レベルで中間需要・最終需要項目に配分されている（配分比率固定の歪みを軽減している）。コモ品目データを用いた詳細な分析については、内閣府に分析を委ねる方向としたい。

4 国際比較可能性

既に一定程度の比較を行い、7月14日のTF会合で報告済み。必要に応じて、追加分析を実施する予定。

以 上